

科目名	保育内容（美術表現の指導Ⅰ） A					単位	2.0
担当教員	堀 義幸						
授業形態	演習	開講期間	後期	配当年次	2	授業番号	5416

●授業のテーマ

造形活動をとおして考える保育

●到達目標

子どもたちの表現そのものを豊かに育てる事を目標に、身近な素材を生かした創造的な造形活動を実践し、豊かな子どもの感性や表現する力を養うための保育の能力を身につける。

●学習内容(授業概要)

本講義は、保育内容(表現)をめぐる保育者の役割を正しく理解する事を第一に考え、子どもの成長に合った造形表現の指導方法を模索する。また、保育の場で対応出来る知識・技術を習得するために学生の主体的な取り組みを重視した造形表現の試作及び研究を基に、適切な教材及び指導方法を習得していく。テーマごとに作業を行い指導計画の作成、造形作品の制作を進めていく。

●学習内容(授業計画)

《後期》

1. オリエンテーション
2. 幼児の発達に応じた造形活動の指導方法について学ぶ
3. 0歳児から2歳児の造形活動を考察する
4. 0歳児から2歳児の造形活動、導入と制作
5. 0歳児から2歳児の造形活動、制作とまとめ
6. 3歳児の造形活動を考察する
7. 3歳児の造形活動、導入と制作
8. 3歳児の造形活動、制作とまとめ
9. 4歳児の造形活動を考察する
10. 4歳児の造形活動、導入と制作
11. 4歳児の造形活動、制作とまとめ
12. 5歳児の造形活動を考察する
13. 5歳児の造形活動、導入と制作
14. 5歳児の造形活動、制作とまとめ
15. 表現活動のまとめ

●準備学習・事後学習の内容

毎回のテーマについての下調べを行うとともに、授業の反省と感想を書いておく。
制作は個人または協同制作とするため、教材研究を日常的に行うようにする。

●成績評価方法・基準

授業に取り組む姿勢や提出物より評価する。
研究の発表 30%、授業内での取り組み姿勢 30%、提出物 40%

●テキスト（必携）

特になし

●参考文献／その他

必要に応じて資料を配布。

●履修上の注意

自らの保育者像を明確に確認し、知識・技術の研鑽を怠らないように。